

LAQUA

クイックマニュアル

フィールド型ポータブル水質計
D-210P/220P、
D-210PC/220PC、D-210PD/220PD

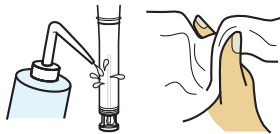


www.horiba-laqua.com

HORIBA

pH校正と測定

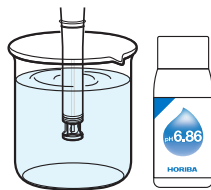
1. pH電極を純水ですすぎ洗いし、ティッシュペーパーで水分を拭き取ります。



2. pH電極をpH標準液に浸します。

サンプルのpHが酸性の場合はpH 6.86と4.01の2点校正を、アルカリ性の場合はpH 6.86と9.18の2点校正を行ってください。

サンプルのpH値が不明な場合は、pH 6.86、4.01、9.18の3点校正を行ってください。最初にpH 6.86の校正を行うことをお勧めします。



3. メータのCALキーを押して校正モードに切り替えます。

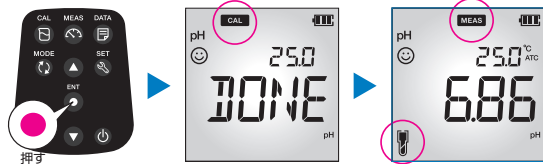
設定したpH標準液が画面に表示され、その後すぐに◎が点滅を始め、測定値が安定すると点灯になります。



※途中でMEASキーを押すと校正を中断できます。

4. ENTキーを押してpHの測定値を確定します。

DONEが表示されて校正が確定します。自動的にメータは測定モードに切り替わり、画面に電極アイコンが表示されます。



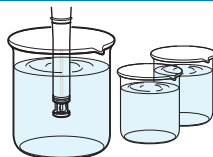
5. 手順1～4を繰り返し、次のpH標準液で校正を行います。

pH標準液がUSA/NISTの場合は5点まで、DINの場合は6点まで校正が可能です。

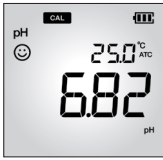
6. pH電極を純水ですすぎ洗いし、ティッシュペーパーで水分を拭き取ります。

7. pH電極をサンプルに浸します。

pH電極のガラス応答膜と液絡部がサンプルに浸漬されていることを確認してください。



pH校正



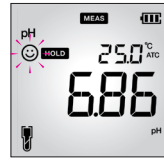
pH校正データ



オートステイブル測定



オートホールド測定



瞬時値測定



pHの各種設定



P4 CLK*

- P4.2 TIME:時間を設定
- P4.1 DATE:日付を設定



P3 GEN

- P3.3 RSET:メータをリセット
- P3.2 A.OFF:オートパワーオフ時間を設定
- P3.1 STBL:測定モードを選択



P2 DATA

- P2.3 D.CLR:データログを消去
- P2.2 PRNT:データログを印刷
- P2.1 LOG:データログ間隔を設定

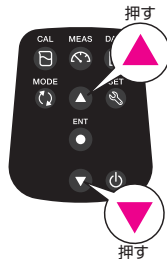


P1 PH

- P1.3 C.CLR:校正データを消去
- P1.2 C.ALR:校正間隔アラームを設定
- P1.1 BUFF:pH標準液を選択



上下キーを押して
設定項目をスクロール



ENTキーを押して
設定を確認



*220モデルのみ